



海外救援金へのご協力を

～平成22年度NHK海外たすけあいご報告等～

世界中の紛争や災害で苦しんでいる人を救いたい、という思いをこめてご寄付いただいている海外救援金。

日本赤十字社では国際活動を支援するため、毎年12月にNHK海外たすけあいキャンペーンを展開しており、今年度の兵庫県支部の最終実績は10,161,995円となりました。これもひとえに兵庫県赤十字奉仕団や兵庫県日赤有功会の皆さまを中心とした、広く県民の皆さまの思いの結集であると感じております。

また、海外救援金は特定の大きな災害、紛争に対しても随時募集をおこなっており、この2月末まではオーストラリア、スリランカ、ブラジルの水害に対する救援金を募っていました。これらの募金についても、宝塚市地区ならびに芦屋市赤十字奉仕団の皆さまなどから温かいご協力を賜っており、世界186カ国の赤十字ネットワークの一端を担う支部として心からお礼申し上げますとともに、引き続き赤十字へのご支援、ご協力をお願いいたします。※現在はニュージーランド地震に対する救援金の受付を行っています。

NHK海外たすけあい 内訳	
兵庫県赤十字奉仕団	4,434,500
兵庫県日赤有功会	2,602,000
特別赤十字奉仕団	145,000
青少年赤十字加盟校	289,261
街頭募金	353,517
兵庫県支部・各施設	848,916
NHK	1,004,420
日赤地区・分区	484,381
合計	10,161,995



地区・分区、赤十字奉仕団等の皆さんによる募金活動

Seminar/Guidance

生徒例会



兵庫県高等学校青少年赤十字協議会生徒協議会例会(第3学期)

～次代を担う高校生に願いを託して～

平成23年2月6日(日)兵庫県高等学校青少年赤十字協議会生徒協議会例会(第3学期)が開催されました。本例会は学期ごとに担当する高等学校がテーマを決め、青少年赤十字の生徒(メンバー)が集って開催しているもので、5校(神戸第一高等学校、兵庫県立伊川谷高等学校、兵庫県立国際高等学校、兵庫県立佐用高等学校、滝川高等学校)からメンバー16人と先生(指導者)5人に参加いただきました。

今回は、高齢化社会の到来により輸血用血液の需要が増加する一方、若年層の献血離れによる献血者の減少といった課題を抱えている「献血」をテーマに選び、はじめに兵庫県赤十字血液センター職員による講義など(献血の現状、若者の献血に対する取組み、献血の手順と血液の使われ方、献血クイズ、DVD上映:「人は人のチカラになれる」)のあと、自分たちが学校でできるテーマ(1.学校に献血バスを呼ぼう!! 2.みんなで献血ルームへ行こう!! 3.献血のPRをしよう!!)ごとにグループワークに取り組み、それぞれのグループで発表を行いました。今後、グループワークで取り組んだ内容が各学校で広がり、多くのメンバーが献血に協力してくれることを願っています。



講習のご案内

・救急法基礎講習

開催日: 4月29日(金・祝)及び5月11日(水)
時間: 13時～17時30分
費用: 教材費1,500円(傷害保険料を含む)

・救急法基礎・救急員養成講習

開催日: 平成23年5月14日(土)・15日(日)・21日(土)の3日間
時間: 9時30分～17時30分
(初日のみ13時～17時30分)
費用: 教材費等3,000円(傷害保険料を含む)

・赤十字水上安全法救助員養成講習I

開催日: 平成23年5月7日(土)・14日(土)・15日(日)・28日(土)の4日間
時間: 9時～17時(最終日のみ9時～14時)
費用: 教材費等 7,000円(傷害保険料を含む)

・幼児安全法支援員養成講習

開催日: 平成23年5月22日(日)・28日(土)・29日(日)の3日間
時間: 10時～16時
費用: 教材費等 1,500円(傷害保険料を含む)

・赤十字 科目別講習(短期講習)

①HL-T11 だれもが知っておきたい介護の基礎知識
②HL-T12 高齢者の健康管理と家庭内の事故防止と応急手当
③FA-T11 一次救命処置
開催日: 平成23年4月24日(日)
時間: ①は10時～12時 ②は13時～15時 ③は15時30分～17時30分
費用: 教材費等 ①は150円 ②は150円 ③は500円(いずれも傷害保険料を含む)

講習開催場所についてはいずれも日本赤十字社兵庫県支部。詳細及びその他の講習についてはホームページ <http://www.hyogo.jrc.or.jp/> まで

ひょうごの 赤十字

2011 3月1日



Contents

特集

災害対応力を身につけよう!!

- 平成22年度第2回評議員会を開催

Close-up 赤十字

- 新たに柏原赤十字病院に救援物資を備蓄
- ハイチ大地震から1年
- 海外救援金へのご協力を

Seminar/Guidance

- 兵庫県高等学校青少年赤十字協議会生徒協議会例会(第3学期)

 日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-4-5
tel. 078-241-9889 fax.078-241-6990
URL <http://www.hyogo.jrc.or.jp/>



災害
対応力



災害対応力を身につけよう!!

～災害に備えて～

平成23年2月11日（金・祝）伊丹市立伊丹小学校において、「ひょうご安全の日」推進事業の一環として「災害対応力を身につけよう!!」を開催しました。

今回で4回目を迎えるこのイベントは、「ひょうご安全の日」の趣旨（阪神・淡路大震災の経験と教訓の継承）を踏まえ、防災、減災に寄与するため、また赤十字防災ボランティア活動の活性化と後継者の育成を図ることを目的に、地域赤十字奉仕団、赤十字防災ボランティアと職員が合同で実施しました。このイベントを通して、広く県民、市民の皆さんに地域防災意識の高揚を図るとともに、赤十字の災害救護活動へのご理解を深めていただきました。

グラウンドは、前日からの大雪で、一面に水たまりができ、ぬかるむ中、午前中は、ボランティアセンターの運営訓練とワンタッチテントやエアータントを使って救護所設営訓練を実施しました。参加したボランティアの方は「このような悪条件でテントを設置することも訓練!」と互いに協力して救護所の設営に取り組んでおられました。午後になっても天候はなかなか回復しませんが、設置した救護所テント内において、伊丹市、川西市、加西市赤十字奉仕団の皆さんによるカレーとみそ汁の炊出しと来場者への配布、特別赤十字奉仕団等による赤十字救急法などのミニ講習、アマチュア無線による非常通信、健康相談などを行いました。また、ゲームコーナーや紙飛行機作りコーナーなどの子ども向けコーナーでは、ちびっ子たちの笑顔があふれ、紙飛行機を作った子どもたちは、早速、紙飛行機を飛ばし、雪が舞う中、ぬかるんだグラウンドをものともせず走りまわっていました。

このイベントを通して、いつ起こるか判らない災害に備えて、災害が起こったときに役立つ知識や技術を来場された県民の皆さんに楽しく身につけていただきました。



テント設置訓練



炊出しをする伊丹市、川西市、加西市赤十字奉仕団の皆さん



心肺蘇生法を体験する来場者

評議員会



平成 22 年度第2回評議員会を開催

平成 23 年 2 月 25 日（金）午前 10 時 30 分から当支部におきまして平成 22 年度第 2 回評議員会が開催されました。

開催当日は、井戸支部長のあいさつに続き、東田事務局長より平成 22 年度における事業進捗状況が報告されました。

その後、平成 23 年度の兵庫県支部事業計画、さらには兵庫県支部の一般会計歳入歳出予算をはじめ、姫路・柏原・多可・神戸赤十字病院にかかる医療施設特別会計歳入歳出予算、兵庫県赤十字血液センターの血液事業特別会計歳入歳出予算など平成 23 年度の歳入歳出予算が審議され、それぞれ承認されました。

また、今年の 3 月 31 日をもって兵庫県支部稲井監査委員の任期が満了となることから、日本赤十字社定款 36 条の規定に基づき改選が行われ、次期監査委員に畑喜春氏が選出されました。



評議員会での様子

地域医療
支援



新たに柏原赤十字病院に救援物資を備蓄

～もしものときに迅速な対応を図るために～

平成 23 年 2 月 3 日から柏原赤十字病院に救援物資の備蓄を開始しました。

これまで兵庫県支部では、大規模災害に備え、被災者の皆さんにすぐに役立つ身近な物資として毛布、ウレタンマット・アイマスク・耳栓などがセットになっている安眠セット、さらには日用品やラジオ・懐中電灯などが入った緊急セットなどの救援物資を、兵庫県支部災害救援物資倉庫や多可赤十字病院に併設する兵庫県支部多可備蓄庫、姫路赤十字病院救護倉庫に分置し備蓄をしています。2 年前の夏、兵庫県北西部を襲った兵庫県台風第 9 号災害をはじめ、兵庫県内、また新潟中越地震など国内で発生した災害の被災者の皆さんにお届けしてまいりました。

このたび、柏原赤十字病院の元看護師宿舎を改装し、一部を救援物資が備蓄できる倉庫としたことで、災害発生時には但馬地域や丹波地域へより迅速な災害対応をとることができるようになりました。

備蓄される数量は、支部全体の在庫により変動しますが、当初の備蓄数量としては毛布 690 枚（69 箱）、緊急セット 300 セット（50 箱）で、概ね兵庫県支部が所有する 4 トントラック 1 台に満載できる数量です。

兵庫県支部では、日本赤十字社の主体事業である災害救護活動において、より迅速な対応を図るため、今後も赤十字施設が一体となり、より効率的な体制を構築できるよう全力を尽くしてまいります。



国際活動
報告



ハイチ大地震から 1 年

～復興に向けた活動を継続中～

平成 22 年 1 月 12 日、マグニチュード 7.0 の大地震がハイチ共和国で発生してから、1 年が経過しました。この大地震は首都ポルトープランスとその周辺地域を直撃し、死者 22 万人、負傷者 30 万人以上、被災者は、国民全体の 5 分の 1 にあたる 200 万人という甚大な被害をもたらしました。

日本赤十字社は、地震発生直後から医師、看護師、薬剤師などからなる緊急救援医療チームを 6 ヶ月間に渡り、6 班 66 人を派遣しています。日本赤十字社が開設した仮設診療所で診療を受けた被災者は、首都ポルトープランスで 11,728 人、レオガン市で 11,259 人にもなりました。また、雨季やハリケーンによる衛生環境の悪化による感染症の流行を予防するため、大規模な予防接種キャンペーンを実施。ワクチン接種者は 35,217 人にもなりました。診療所を訪れた人々に対して衛生知識の普及も行いました。

しかしながら、10 月中旬にハイチ中部地域で発生し、その後、全国へ拡大したコレラについては、これまでに感染者 220,784 人、死者が 4,334 人（2 月 11 日現在、WHO 発表）にも上っています。この事態に対応すべく、日本赤十字社は国際赤十字・赤新月社連盟からの要請により 11 月 15 日よりコレラ救援医療チームを派遣。日本赤十字社ではカナダ赤十字社と協力し、コレラ治療施設を 2 ヶ所に設置して患者の治療に当たっています。



コレラ治療施設で資機材管理を行う
姫路赤十字病院の高原美貴看護師長



これらの状況をうけ、兵庫県支部からは、昨年 5 月から支部職員の北村幸司主事を、6 月から神戸赤十字病院の岡田亜紀看護係長をそれぞれ約 1 ヶ月間、緊急救援医療チームのメンバーとして派遣しました。

また、昨年 12 月からは姫路赤十字病院の高原美貴看護師長をコレラ救援医療チームのヘッドナースとして現地へ派遣し、現在もコレラ対策の活動を継続しています。

地震発生から 1 年以上が経過した現在も、ハイチでは多くの被災者が支援を必要としており、復興には最低 10 年がかかるといわれています。日本赤十字社は国際赤十字の一員として、発災直後の緊急救援における医療サービスの提供はもちろんのこと、復興期においても保健、給水・衛生サービスの提供を行うなど中長期的な復興支援をハイチ赤十字社や地元ボランティア、地域住民、そして、婦人会などと協力して進めています。

日本赤十字社では、これからもいのちと健康、尊厳を守る支援活動を続けてまいります。